

之ヲ為地區隊長ノ許可ナクシテ住民ノ井  
戸及天水ノ使用ハ嚴禁ス  
水槽以外ノ貯水要領ハ附表第一ノ如シ  
第四、各隊長ハ宜シク本計劃ニ從ヒ速ニ之ガ準  
備ノ完壁ヲ計リ隨時自隊貯水ノ狀況ヲ檢  
シ漏水混濁汚損腐敗等ノ防止ニ努ムルト  
共ニ給水對策ヲ樹立シ節水訓練ノ徹底ニ  
努メ常時最少限三週間分ヲ確保スベシ  
苟モ水ノ為戦力ニ支障ヲ来スガ如キハ絶  
對ニ之ヲ許サズ

第二章 施設

第五、貯水施設位置ノ選定ニ際シテハ戰術上ノ  
要求ニ適應セシメ且反記事項ニ留意スベシ

人降雨時良好ナル多量ノ地表水ヲ得ル如ク  
陣地内ノ傾斜地等ヲ利用

一、戰間ノ給水ニ便ニシテ砲撃等ニ抗シ得  
ル如ク努メテ坑道内ニ設ケ止ムヲ得ズ坑  
道外ニ設クル場合ハ上空及地上ノ敵ニ對シ  
遮蔽良好ナル箇所ヲ選定シ水槽ハ地下ニ  
埋設シ且ツ堅固ナル掩蓋ヲ施シ偽裝ヲ完  
全ナラシムベシ

二、土質堅硬ニシテ土崩レノ慮レナキ場所ヲ選定  
ス井水補給ヲ考慮シ特ニ搬水容易ナル場所

第六、貯水槽ハ獨木一ノ小隊(三ノ名乃至四ノ名)一箇ヲ  
基準トシ且陣地ガ各隊相互ニ連絡シアル  
部隊ハ相互間ニ於テ密ニ協定ノ上約三〇  
ノ距離ニ於テ構築スベシ

但シ重火器部隊等ニ於テ陣地ノ關係之ヲ許ササル場合ハ此限ニ非ズ

貯水槽構築ノ一例附圖第一其二其三ノ如シ

第七 雨水採集ニ際シテハ降雨初期ノ汚染水ノ流入ヲ防止スル如ク流入口ヲ閘開式若クハ瀘過装置ヲ施スベシ

第八 雨水ノミニ依リ難キヲ考慮シ腐敗防止上井水トノ混淆ヲ避クル爲要スルバ別箇ニ瓶窠樽等ヲ備付クベシ

第九 各隊ハ新設貯水槽ノ外ニ陣地附近ノ民家ニ於テ現ニ使用シ非ザル天水槽若クハ家族数少クシテ二箇以上ノ天水槽ヲ所有シアルモノハ副施設ニテ之ヲ確保スベシ但シ借上ゲニ際シテハ豫メ契約ヲナシ特

ニ住民ヲ壓迫セザルコトニ留意スベシ  
第十 各隊新設貯水槽ノ位置及副施設トシテ借上ゲ使用シ得ル天水槽並使用區分附圖第一二ノ如シ

### 第三章 給水並補給

第十一 各隊長ハ戦闘開始時最少限三週間分(一滴ノ水モ補給スルコトナシ)ノ水ヲ貯水シアル如ク常時ヨリ貯水槽及其他ノ資材施設ヲ利用シ水ヲ確保スル計重ヲ立テ且實施ヲ確實ナラシムベシ

第十二 各隊ハ天水及平時井水ノ搬送ニ依リ準備ヲ完成シ戦闘間ニ於ケル井水ノ直接搬送ハ豫備トシテ考慮シ置クベシ則チ井水ハ

ハ豫備トシテ考慮シ置クベシ則チ井水ハ

第十三 戦時ニ過間以上ニ亘ルカ又ハ砲撃ノ為貯  
水槽破壊セラレタル場合ハ副施設ヲ利用ス  
尚副施設ヲモ破壊セラレ断水ノ場合ハ把  
區隊長ノ許可ヲ受テ民家ノ貯水槽ヲ使用  
スルコトヲ得

第十四 各隊貯水ノ換水ハ概ネ一月一回ヲ基準ト  
シ別紙第二ニ據ルベシ

第四章 防疫

第十五 各隊幹部ハ防疫即戦力タルヲ銘肝シ常ニ  
水源並貯水箇所ノ淨化ニ努ムベシ

第十六 高級軍医ハ各陣地内ノ水槽並水源ノ氷質  
水量ヲ検査シ防疫ニ遺憾ナキヲ期スベシ

第十七 水源ニハ左記様式ノ標識ヲ付スベシ  
「飲用適」「濾過飲用適」「消毒飲用適」

「消毒雜用適」「使用不適」

第十八 日常ノ飲料水ハ煮沸スベシ止ヲ得ザル際  
ハ中隊長以上ノ命ニ依リ生水ノ飲用ヲ許  
可スルコトヲ得

第十九 各陣地貯水槽ニハ濾水器ヲ設置スベシ  
其要領附圖第三ノ如シ

附表第一

貯水樽以外ノ貯水要領

貯水容器	受筒容量	備
空壇	二立	酒空壇ヲ示ス
空甕	約五〇立	茶甕水甕穀類貯藏甕等
空樽	約五〇立	砂糖樽ヲ示ス
竹水筒	約〇八立	竹ハ成可ク大ナルモノヲ使用
ビール空壇	〇八立	
ドラム 罐	二〇〇立	

備 考  
 一各隊ハ各種容器ヲ利用シ(一日一人五立)一週間分  
 ノ飲料水ヲ確保スベシ

附表第二

井戸三 標九 分隊

隊	號	種	日	備	用	井	戸
部隊本部	1						役場東側
第七中隊	2						火井戸側
第八中隊	3						石同
第九中隊	4						役場東側
第三機關銃中隊	5						石同
機關銃小隊	6						石同
獨立機關銃中隊	7						石同
獨立速射砲中隊	8						石同
砲兵中隊	9						石同
工兵小隊	10						石同

當大川之流況ニ依リ當日使用井

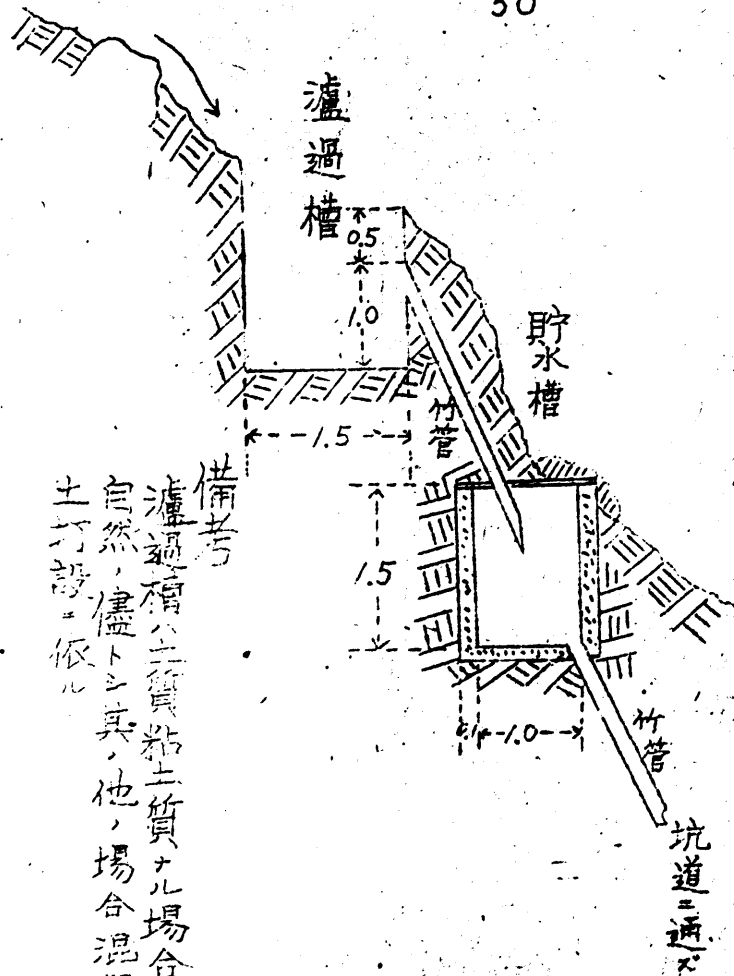
十 獨八 火井戸側 使用

水標九 分隊 1 2 3 4 役場

石同 役場東側 使用

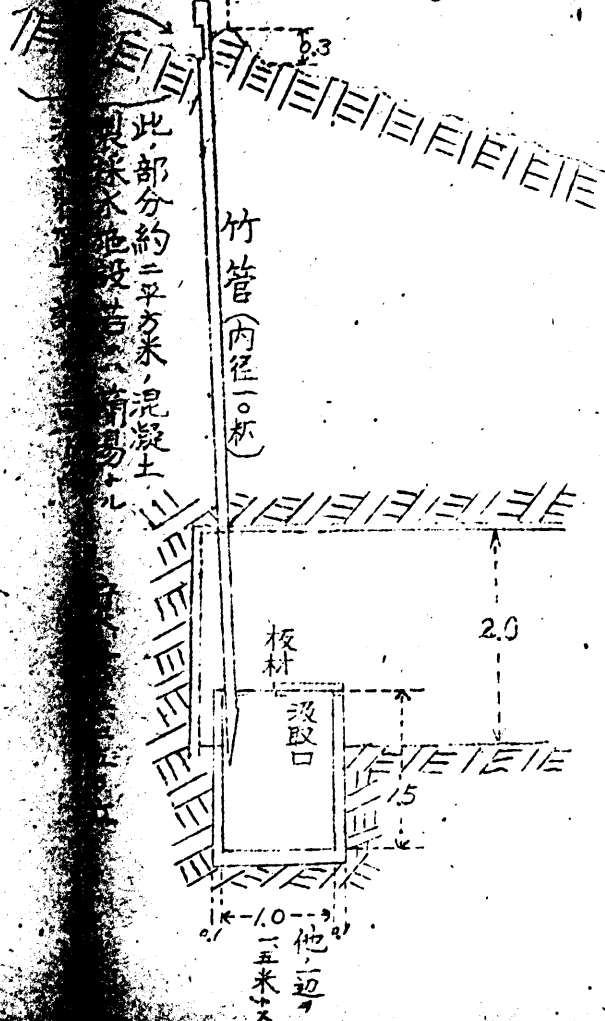
合場ル依=過瀘然自ニ用利ヲ地斜傾 其二  
(面 断)

1/50



備考  
瀘過槽ハ二質粘土質ナル場合ハ  
自然、儘トシ其、他、場合混凝  
土ヲ設ニ依ル

合場 築構=内道坑 其一  
(面 断) 堤堰 1/50



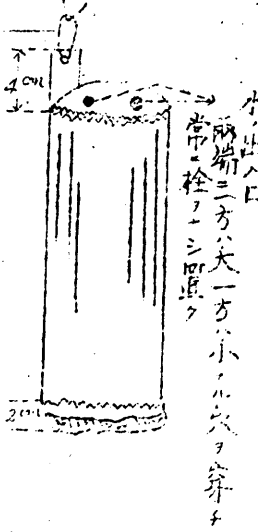
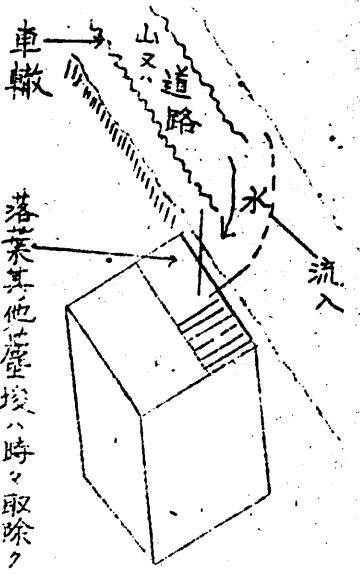
此部分約二平方米、混凝土  
敷設ニ依リ、貯場ナリ

貯水槽構築一例

山又ハ道路ヲ利ヲ水ル方  
(圖視斜)

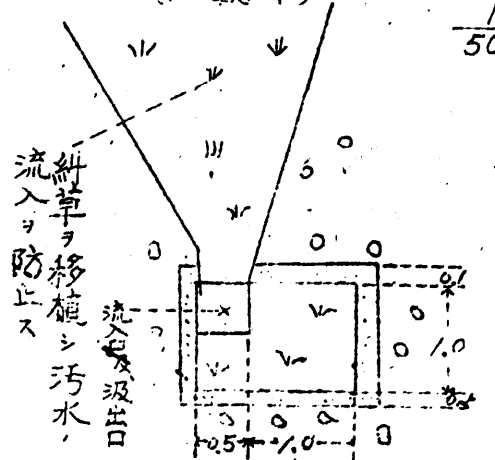
(其三)

(其四)  
竹水筒ノ構造  
無須



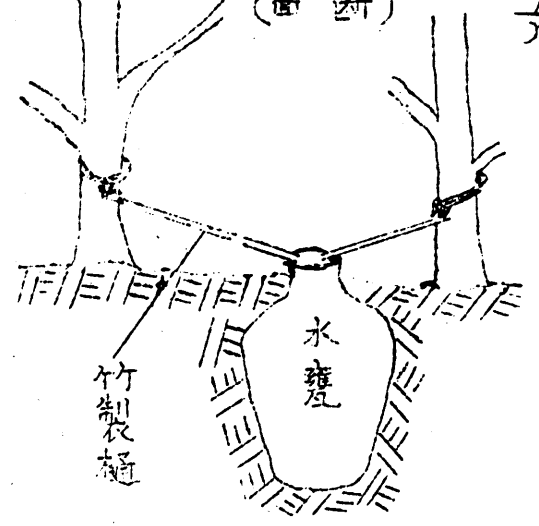
谷ノ水ヲ集メテ平地ニ  
(面載平)

(其二)  
1/50



樹木ヲ利ヲ集メテ水ル場  
(面断)

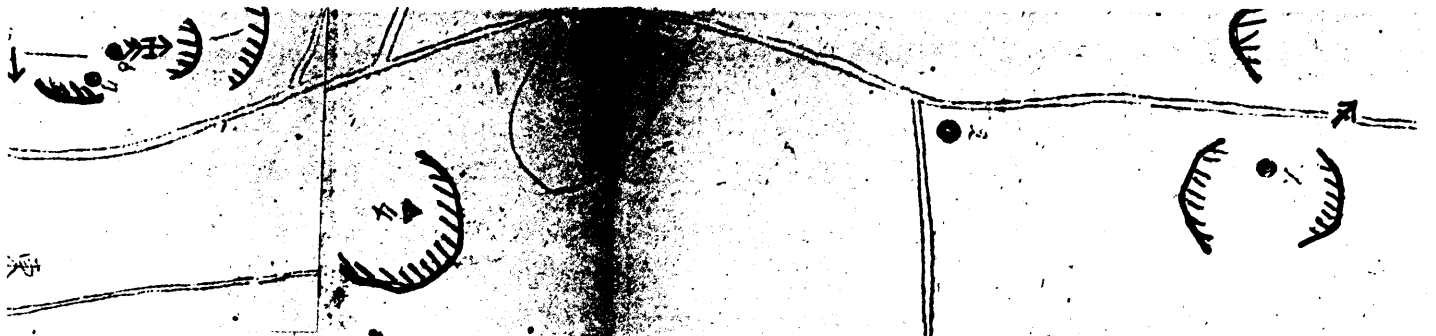
(其三)  
1/2



附圖  
第三

伊江地區給水施

貯水槽使用區分	人員	貯水量	檢	要	檢	要	貯水量	人員	貯水量	檢	要
0.1	7.7	3.0	3.0	3.5	副花設	要	21	3Mg	1	4	副花設
0.2	7.7	3.0	3.0	2.5	副花設	要	22	RIA	6	1	石同
0.3	MgS	1.1	1.5	0			23	RIA	1	2	
0.4	7	9	1.5	0	副花設	要	24	RIA	1	5	副花設
0.5	MgS	4.0	0.0	0			25	TA	4	4	
0.6	TA	1.4	2.5	0			26	TA	3	4	
0.7	7	3.8	2.5	0			27	9	3	4	
0.8	9	3.2	4.0	0	副花設	要	28	9	4	4	副花設
0.9	7	3.1	2.5	0	副花設	要	29	8	3	4	副花設
0.10	Mg	2.6	2.5	0			30	8	3	4	
0.11	TA	1.4	2.5	0	直接平戶使用		31	3Mg	1	3	
0.12	7	2.8	2.5	0			32	8	3	3	
0.13	7	2.8	2.5	0			33	3Mg	1	3	
0.14	TA	1.4	2.5	0			34	H	1	3	副花設
0.15	TA	1.4	2.5	0			35	8	1	3	副花設
0.16	TA	1.4	2.5	0			36	8	1	3	
0.17	TA	2.5	2.8	0			37	8	1	3	
0.18	TA	2.4	2.8	0			38	8	1	3	副花設
0.19	Mg	1.0	1.5	0			39	3Mg	1	3	石同
0.20	A	1.7	1.5	0			40	8	1	3	石同



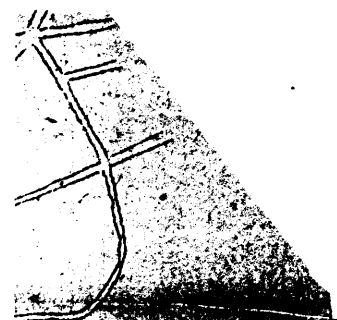
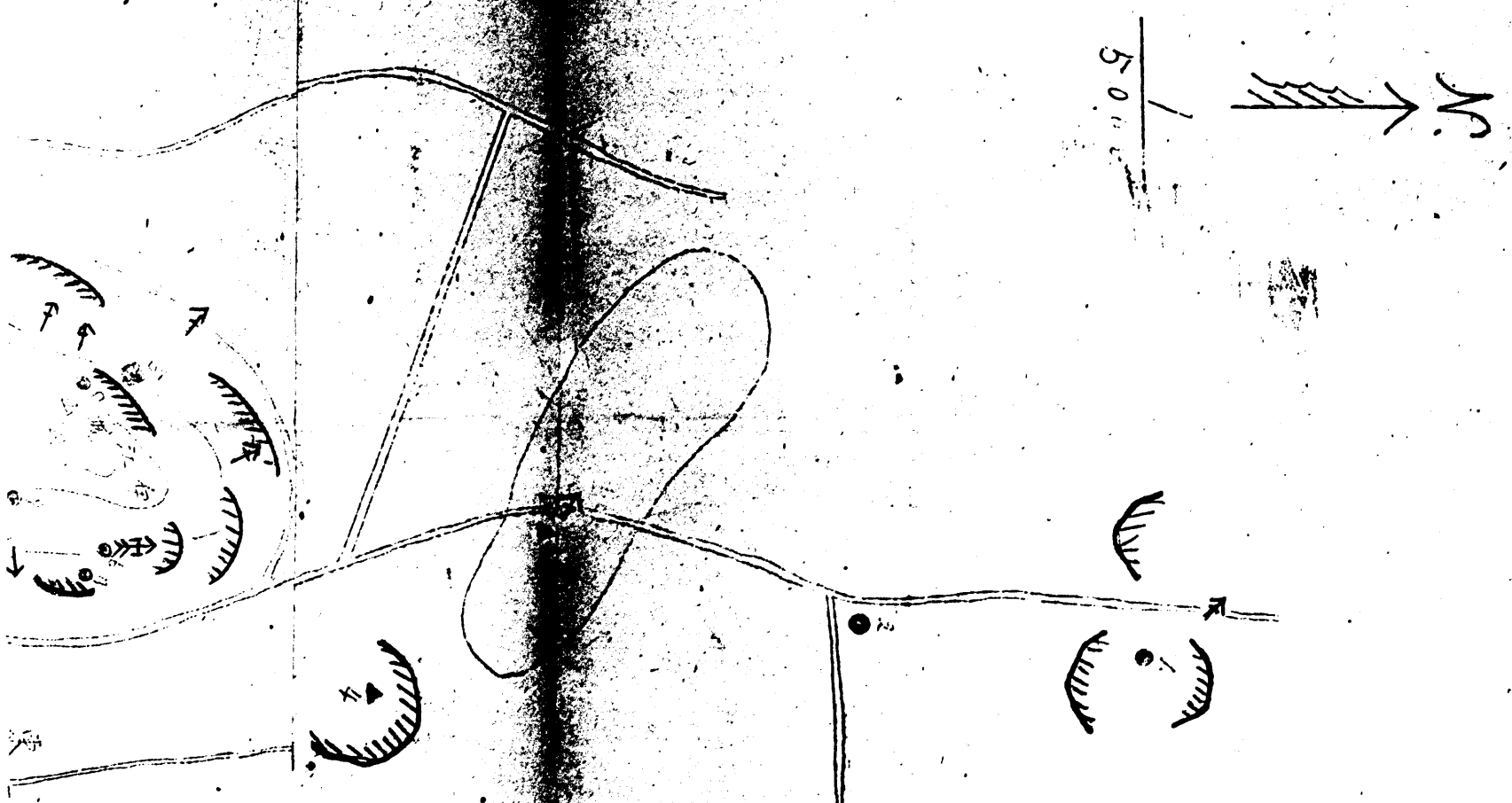
東

南



# 隊給水地一覽要圖

0	20	A	1	1	1	40.3	8	3	4	石
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1



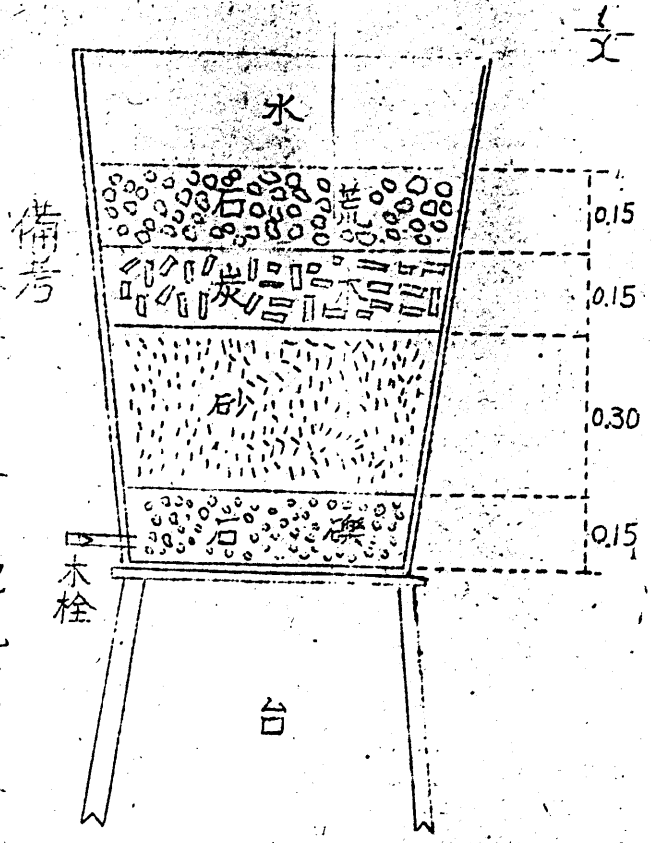




例一 簡易ルナ濾過裝置

合場ルメ用利ヲ樽空

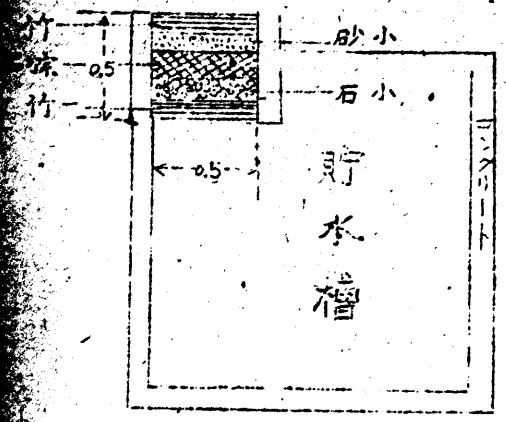
合場ルメ設施ニ槽水貯



本要領ニ依ル他築營教範  
第四十四圖 第四十五圖ノ方法ニ依ル

備考

流入口



附錄第四

整理番號第 號

軍事極秘

伊江島地區隊戰鬥計畫書

伊江島地區隊

附圖	紙數	昭和十九年十一月十五日編製
四枚	拾七枚	

獨混十五西作命第 號

伊江島地區隊、戰闘計畫書ヲ本冊、如ク定ム

昭和十九年十一月

伊江島地區隊長西村信義

總則

目次

第一章	任務
第二章	方針
第三章	戰闘指導要領
第四章	戰闘部署地ニ各隊ノ任務
第五章	航空部隊ト、協同
第六章	戰況ノ推移ニ應ルニ處置
第七章	訓練
第八章	情報警戒防諜
第九章	交通築城
第十章	對空戰闘
第十一章	瓦斯防護
第十二章	通信

第十三章  
第十四章

給水衛生ニ関スル事項  
住民並ニ現地物資利用ニ関スル事項

總則

- 一 本計画書ハ獨立混成第四十四旅團守備計画ニ準據シ伊江島ノ戰鬪ニ関シ必要ナル事項ヲ示ス  
本計画書ニ示ス事項ノ外ハ典令、乾島嶼守備戰鬪教令第三十二軍戰鬪教令ニ據ルモノトス
- 二 各隊ハ本計画書ニ基キ戰鬪遂行ニ必要ナル施設ヲ堅固ニ構築ス  
ルト共ニ各隊ノ訓練部隊ノ訓練ヲ復舊練シ周到ナル準備ト精到ナル訓練ト相俟ツテ任務達成ニ遺派ナキヲ期スルモノトス
- 三 地上戰鬪開始サレ飛行場ノ使用不能トナラバ飛行場諸隊ハ地区區隊長ノ區署ニ受ケ戰鬪ス
- 四 本計画書ヲ改訂補修スル場合ハ其ノ都度報告又ハ通報スルモノトス

第一章・任務

一 飛行場諸隊ト共ニ伊江島ヲ確保シ飛行隊ノ活動ヲ容易ナラシム  
特ニ敵ヲシテ飛行場使用ヲ不能ナラシム

第二章・方針

一 一部ヲ沿岸要點ニ配置シ極力敵ノ上陸ヲ妨害スルト共ニ主力ハ伊  
江城山及學校高地周邊ニ最も堅固ニ主陣地ヲ構築シ側射ヲ背射ヲ  
主トスル火網ト機微ニ投ズル逆襲トニ依リ敵ヲ陣前ニ撃滅ス  
ニ 状況眞ニ已ムヲ得サル場合ニ至ルモ激々準備セル復原陣地ニ據  
リ最後ノ一兵ニ至ル迄陣地ヲ固守シ砲兵ノ射撃ト輕便射撃ナ  
ル挺身奇襲トニ依リ敵ヲシテ飛行場ノ使用ヲ不能ナラシム

第三章 戦闘指導要領

一 敵ノ艦砲射撃ニ對シテハ洞窟横穴ニ待避シ絶對安全ヲ期スルト

共ニ戦闘準備ニ萬遺憾ナカラシム

ニ 海岸ニ配置セル部隊ハ敵ノ上陸ニ際シテハ豫々準備セル「ガツリン」  
戦法ト斜射側射トニ依リ極力水際撃滅ニ勉ム  
目的達成後ハ敵ニ接觸シツ、本陣地ニ歸還セシム  
「ガツリン」ニ依ル戦法ハ燈臺附近山々部落附近照大寺附近ノ水際  
ニ大々的ニ準備スル外其他ノ地域部落内ニ於ケモ「ガツリン」又  
爆彈地雷ノ利用ニ勉ム

マシヤ部落山々部落ノ現住民ノ大部ハ水際戦闘ニ協力セシム

ニ 第三〇飛行場大隊警備中隊ハ主力ヲ以テ飯場松林高地及西江上却  
落西端ニ陣地ヲ占領シ極力其位置ヲ固守スルト共ニ背射側射ヲ  
最も有効適切ニ行ヒ敵戦力ノ消耗ヲ圖ル 状況已ムヲ得ザル場  
合ニ至ルモ飯場松林ノ高地及部落ノ一部ヲ確保シ部落戦闘ヲ實  
施ス 特ニ對戰車肉薄攻撃並ニ挺身奇襲ヲ果敢ニ實施スルモノ



一 照大寺附近ニ陣地ヲ占領シ極力其位置ヲ固守スルト共ニ最も有効適切ニ背射側射ヲ行フ 特ニ對戰車内薄攻撃地ニ挺身奇襲ヲ果敢ニ實施スルモノトス

二 特別工兵隊ハ地上戰闘ニ當リテハ一部ヲ以テ奇襲戰法ニ依リ輪切ノ水源ヲ確保スルト共ニ大部ハ肉薄攻撃手及挺身奇襲ニ任ズルモノトス

三 細部ハ別ニ示ス

四 地區隊及飛行場諸隊ハ全員戰車内攻手タルノ主義ニ徹シ敵戰車ニ對シ猛烈果敢ナル内攻ヲ行フト共ニ「ピツクリ箱」ヨリ不意ニ現出シテ行フ挺身奇襲ヲ徹底シテ實施スルモノトス

五 敵上陸シ海岸近クニ橋頭堡ヲ設ケ爾後ノ攻撃ヲ準備スル場合ニ於テハ夜暗ヲ利用シ各隊ハ地區隊及飛行場諸隊ハ挺身奇襲ヲ執拗ニ敢行シ其企圖ヲ破棄セシム

此ハ陸防隊居住民ヲ加フ

六 挺身奇襲ハ夜暗ニ乘シ煙幕、障礙物、手榴彈、集束手榴彈等ヲ携行シメ敵ヲ指揮所、觀測所、火炮、戰車ノ集結地、彈藥、糧秣、積所等ニ對シ執拗果敢ナル奇襲ヲ敢行セシム

七 敵戰車ニ對シテハ隊ノ準備セル障礙物ト連射砲又肉薄攻撃ニ依リ撃滅スルモノトス

八 地區隊長以下全員肉薄攻撃手タルヲ主義トス

九 對戰車戰闘ハ其場ニ於テ戰闘スルヲ本則トシ對戰車砲地雷肉薄攻撃等ヲ併用シ執拗果敢ナル攻撃ニ依リ目的達成ニ勉ム此ノ際敵戰車ヲ追迫セ戰闘スルコトヲ嚴禁ス之ヲ為メ對戰車障礙物構築ハ前記ノ方法ヲ遂行スルニ便ナル如クス

十 主陣地ノ戰闘ニ於テ小銃、輕機、射擊ハ正面射撃ヲ百米以内背射側射ノ概算三百米以内トシ疾速適當の急襲火力ニ依リ陣地直前

敵ヲ撃滅ス

一 砲兵ハ砲兵隊ノ陣地ヲ準備シ巧ミニ位置ヲ移動シ敵ノ重火器ニ  
 目標ヲ捕捉セラレザル如ク其ノ特性ヲ高度ニ發揚セシム  
 二 砲兵ハ砲兵隊ノ目的ノ爲ニ豫備陣地ヲ設ケ置クベシ而シテ射撃開  
 始ノ時機ハ地區隊長ノ命ニ依ルモノトス  
 三 敵若シ我陣地ノ一部ニ侵入セバ小隊長ハ控置セル火力及白兵ヲ  
 以テ敵ノ側背ニ殺到シ陣地ヲ奪回ス  
 四 陣前逆襲ハ行ハサレラ主義トス  
 五 陣内ニ於ケル逆襲ハ状況ニ依リ行フモ極メテ短切ニシテ機微ニ  
 投スルヲ要ス而シテ成功後ハ直ニ元ノ陣地ニ復歸スルモノトス  
 六 地區隊長ハ本部半島地區方面ニアル砲兵ニ對シ状況ニ應ジ射撃  
 ヲ要請ス本射撃ハ敵ノ飛行場使用ヲ開始スル時機以後ニ於テ行  
 ハサレトス

七 敵遺棄兵カヲ増加シ我陣地ヲ侵略シ之ガ保持全ク困難ナル状態  
 ニ至ルモ最後ノ一兵ニ至ルマデ陣地ヲ死守ス

一人當千ノ働ヲ爲スハ實ニ此ノ時ナリ隊長ノ屍ヲ掩シ斃ルルモ  
 尚己マサル烈々タル捕公精神ヲ發揮コソ我忠勇無比ナル伊江島  
 地區隊ノ本領トス

第八章 戰術部署並ニ各隊ノ任務

- 一 戰術部署並ニ陣地ノ概要左記ノ如シ
  - 1. 主陣地附近 附圖第一ノ如シ
  - 2. 燈臺附近 附圖第二ノ如シ
  - 3. 山々部落附近 附圖第三ノ如シ
- 二 各隊ノ任務
  - 1. 第一中隊 (小隊長 若澤ハルミツ 分隊長 獨逸一ツ 分隊長 獨逸一ツ) ハ主カヲ以テ伊江城山北

東側北麓 洲女山 (女山ヲ含マズ) ノ間ニ陣地ヲ占領スルト

共ニ村林ヲ指揮スル約半小隊ハ伊江城山北方約千米松林一軒  
屋附近ニ派遣シ敵戦力ノ消耗ニ任ビシムル如ク準備スベシ  
特ニ該部隊ノ陣地ハ堅固ナラシメ且秘匿スル如ク勉ムベシ  
又一部ヲ伊江城山東北方二百米松林臺上附近ニ陣地ヲ占領セ  
シ、伊江城山北方凹地ヲ射撃シ得ル如ク準備スベシ  
又墓地ノ高地ニ約一々分隊ヲ派遣シ敵ノ前進阻止ニ任ビシノ  
敵戦力ノ消耗ヲ圖ルベシ

2. 第八中隊(一々分隊欠一々學校周邊ノ高地ヨリ文山(文山ヲ  
舍ム)ニ巨ル間ニ堅固ニ陣地ヲ占領スルト共ニ部落戦闘ヲ  
準備スベシ  
特ニ第九中隊トノ相互支援ニ関シ所要ノ處置ヲ講ズベシ  
又山々部落田中中尉指揮スル半小隊ヲ派遣シ敵ノ上陸ニ際シ  
テハ敵ノ準備セルガソリニ戦法竝ニ側射ニ依リ敵ヲ水際ニ撃  
滅スベシ

陣地ハ堅固ニシテ且秘匿ニ勉ムベシ  
3. 第九中隊(半小隊欠一々)ハ伊江城山北西側ヨリ西江上飛行場  
邊(道路ヲ舍マズ)ニ巨ル間ニ堅固ニ陣地ヲ占領スベシ  
特ニ一部ヲ以テ伊江城山北西側及北側凹地ヲ射撃シ得ル如ク  
又第八中隊トノ相互支援ニ関シ準備スルモノトス  
又西江上部落北端陣地ノ翼ヲ強化スル如ク勉ムルト共ニ部落  
戦闘ニ関シ準備スルベシ  
4. 大橋機關銃中隊(一小隊欠一々)記念碑高地及大井戸上高地文山  
附近ニ堅固ニ陣地ヲ占領シ主トシテ第八中隊狀況ニ依リ第七  
中隊証面ノ戦闘ニ協同スベシ  
一々分隊ヲ以テ伊江城山南側山腹ニ堅固ニ陣地ヲ占領シ西江  
上部落内道路ヲ縱射スルト共ニ第九中隊左支點前ヲ射撃シ得  
ル如ク準備スベシ又一々分隊ヲ燈臺附近ニ派遣シ第九中隊孤  
立小隊(一小隊欠一々)ノ指揮ニハラスベシ

分隊ハ伊江城山東北側ハ豫備陣地ハ伊江城山西南側山脚附近ニ陣地ヲ占領シ  
近ニ陣地ヲ占領シ伊江城山東方及東方(狀況ニ依リ第九中隊)

左小隊正面)ヲ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領スベシ

獨立機關銃中隊(一小隊々)ハ一小隊ヲ以テ東江上部落西端ヨリ伊江城山東南側斜面ニ亘ル間ニ陣地ヲ占領シ第七中隊陣地前ヲ射撃シ得ル如ク主力ヲ以テ第七中隊左小隊及第九中隊右小隊陣地内ニ陣地ヲ構築面中隊陣地前ニ突進ヒル敵ヲ斜射側射ヲ以テ陣地前ニ撃滅シ得ル如ク準備スベシ  
特ニ一分隊ヲ伊江城山東方海岸道橋附近ニ他ノ一分隊ヲ以テ第九中隊右小隊ノ前方百米松林高地附近ニ觸角陣地ヲ構築シ主トシテ伊江城山北方凹地及第九中隊正面ヲ射撃シ得ル如ク準備スベシ

細部ハ現地ニ於テ示ス

獨立速射砲中隊ハ主力ヲ以テ伊江城山西南側山麓ヨリ西江上不正十字路ニ亘ル間ニ陣地ヲ占領シ第九中隊前面ニ突進スル敵車ヲ斜射側射シ得ル如ク一部ヲ以テ伊江城山東側斜面ニ陣地構築第九中隊方向ヨリ第七中隊正面ニ前進スル敵車ヲ側射シ得ル如ク準備スベシ

特ニ各陣地ハ堅固ニ構築シ巨砲匿ムベシ  
砲兵中隊ハ野砲一門ヲ伊江城山南側附近ニ一門ヲ記念碑山附近ニ豫備陣地ハ伊江城山南側(一ノ十番)ニ門)ハ女山北側附近ニ各々陣地ヲ堅固ニ且掩護シテ占領飛行場及第九中隊陣地前ヲ射撃シ得ル如ク準備スベシ(東正面南正面或ハ東北方ニ對ス)エ兵小隊ハ伊江城山南側鞍部附近ニ位置シ主力ヲ以テ伊江城山側邊ノ障礙物設置ニ任ズルト共ニ對敵直戰鬪ノ準備ニ任ズ

山脚邊ノ障礙物設置ニ任ズルト共ニ對敵直戰鬪ノ準備ニ任ズ

冠昇ノ構築並ニ小型機雷ノ埋設ニ関シ協カスベシ  
第九中隊三小隊正面戰車

10. 通信班ハ樹園第四第三ノ如ク通信網ヲ開設ヲ準備スベシ

11. 各隊ハドラム罐ニ依ル水ノ補給ヲ各陣地ニ準備スルト共ニ陣地ニ水樽ヲ設ケ常ニ水ヲ準備シオクベシ

細部ニ関シテハ別命ス

12. 茨生中尉(部下下半小隊)大隊機關銃一分隊ヲ附ス(ハ大隊直轄トシ登臺附近ニ堅固ナル陣地ヲ構築シ敵上陸ニ先テガソリニ戦法ト測射トヲ併用シ敵ヲ水際ニ於テ撃滅スベシ) 水際障壁物ノ設置ニ関シテハ隊メ工兵小隊長ノ協カヲ受ケ準備シオクモ、トス細部ハ現場ニ於テ示ス

13. 豫備隊(第七中隊)小隊長ノ指揮スルニケ分隊(伊江城山南側斜面ニ位置シテ堅固ナル陣地ヲ構築スベシ) 特ニ對戰車肉薄攻撃ヲ以テスル挺身奇襲ノ訓練ヲ徹底シテ實施シオクベシ

14. 第五〇飛行場大隊(整備中隊)ハ主力ヲ以テ飯場松林高地及西江上部落西端ニ陣地ヲ占領シ極力其位置ヲ固守スルト共ニ背射側射ヲ最モ有効適切ニ行フ

15. 第一五八飛行場大隊整備中隊ハ主力ヲ以テ八二高地ヲ一部ヲ以テ飯大寺附近ニ陣地ヲ占領シ極力其位置ヲ固守スルト共ニ最モ有効適切ニ背射側射ヲ行フ

16. 第五〇飛行場大隊ノ補給中隊ハ敵ノ攻撃ヲ受ケ補給ノ任務遂行シ難キ状況トナラバ其凡ニル資材ハ擧ゲテ地上戰鬪ノ戦力ト化シ特ニ對戰車戰鬪ニ必要ナル兵器資材ヲ整備スルト共ニ一部ヲ以テ通路ノ阻絶ヲ實施シ對戰車戰鬪ヲ果敢ニ行フ等地區隊ノ戰鬪ニ協カスルモノトス

17. 第一五八飛行場大隊ノ補給中隊ハ第五〇飛行場大隊補給中隊ノ行動ニ準ス

18. 特別工兵隊ハ地上戰鬪ニ當リテハ全員肉薄攻撃手及挺身奇襲

敵の東正面（状況ニ依リ北又ハ南正面）ヨリ上陸シ未  
レモ遠シク之ニ應ジ得ル如ク陸地ヲ構築シ且所要ノ訓練ヲ實施  
シテ之ヲ準備スルニ當リハ  
一 敵ノ防禦線ヲ破ルニ當リハ  
二 敵ノ交通線ヲ遮断スルニ當リハ  
三 敵ノ補給線ヲ遮断スルニ當リハ  
四 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ  
五 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ  
六 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ  
七 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ  
八 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ  
九 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ  
十 敵ノ要地ヲ占領スルニ當リハ

### 第五章 航空部隊トノ協同

- 一 地區隊ハ伊江島飛行場ヲ使用スル飛行隊ヲシテ全能力ヲ發揮シ得ル如ク積荷的ニ協カス
- 二 敵上陸シ飛行場ノ使用不能ニ陥リタル場合ニ於ケル地上戦闘ニ關シテハ地區隊長ハ飛行場諸隊ヲ配置シ且凡ユル航空兵器資材ヲ地上戦闘ノ爲ニ使用ス
- 三 飛行場諸隊ニ對シテ平素ヨリ精神的連絡ヲ密ニシ團結ヲ固ムルハ勿論對戰車戰鬥其他必要ナル地上戦闘ニ關シテ地區隊ハ所要ノ援助

### (協カニヨリテモトス)

- 一 飛行場諸隊及特別工兵隊ハ地上戦闘ニ當リテハ挺身攻撃對戰車戰鬥ヲ果敢ニ行ヒ地區隊ノ戰鬥ニ密ニ協カスルモノトス
- 二 飛行隊ニアル兵器資材ノ利用  
ノガソリンハ火油瓶或ハ水際並ニ陸上ニ於ケルガソリン戰法等ニ利用ス
- 三 爆彈ハ對戰車地雷ニ利用ス
- 四 「ロール」等ハ障礙物ニ利用ス
- 五 自動車ハ地上戦闘ノ補給ニ利用ス
- 六 若シ敵ニ兵器資材等ヲ利用セザルニ當リテハ其ノ状況ニ至ラバ擧破若ハ火炎上スル如ク飛行場大隊ニ於テ準備シ絶對敵ニ利用セシム
- 七 地上戦闘ノ際ニ於ケル地區隊ト飛行場諸隊トノ協同戰鬥ニ關スル細則ハ別ニ制定ス

第六章 戰況ノ推移ニ應ズル處置

- 一 本計画書ハ敵ノ主カガ西方海岸ヨリ上陸シ伊江城山ニ迫ル場合ヲ基礎ニ計画シイルモ敵若シ東海岸ヨリ或ハ南海岸ヨリ主カラ以テ上陸シ来ル場合ニ於テモ之ニ應シ得ル如ク主陣地ハ周邊ニ陣地ヲ構築ス特ニ重火器ノ大部ハ直ニ必要方面ニ移行シ得ル如ク豫備陣地ヲ設ケ且之ヲ訓練ヲ豫メ實施シ置クモノトス
- 二 重火器ノ陣地ハ何レノ方面ヨリ敵ガ上陸シ攻撃シ来ルモ之ニ即應スル如ク多數ノ陣地ヲ構築スルモノトス
- 三 砲兵陣地亦前第二項ニ準ジ構築ス

第七章 訓練

- 一 常ニ動論ヲ奉戴シ之ガ具現ニ勉ムルト共ニ本隊最ナル軍紀ノ下級石ノ團結ヲ固成シ飛行場諸隊ト一致團結シ覺レテ後尚已マザルノ敢闘精神ヲ涵養シ勉ム

二 地區隊ハ飛行場諸隊ニ對シ對戰車兵學其他地上戰闘ニ必要ナル教育

訓練ヲ積局的ニ實施スルコトニ協カス

三 常ニ「ハブ」ニ對スレ血精注射ヲ準備シツ、猛烈ナル晝間夜間ノ訓練ヲ實施ス

訓練上重要スル事項左ノ如シ

- 一 對砲爆撃
- 二 砲爆撃ノ要領ト特性
- 三 對空戰闘

一 發必墜ヲ信條トスレ射撃時機ノ捕捉及彈藥ノ節用

二 築城ノ利用及之ト併行スル洞窟(掩蔽部)ヘノ敏活ナル出入

三 疎開秘運及偽騙

四 對機甲

五 隊員其ノ他隊員對シ用法及創意資材ノ普及

各種肉攻要領

一 大砲及速射砲ヲ以テスル短切ニシテ機微ニ投ズル射撃要領

3. 夜間訓練

二 對戰車障礙物ヲ利用スル攻撃要領

一 接近及突入要領

二 組及小部隊ノ挺身奇襲(下意・乘込・爆薬物ノ投擲斬込・戦法等)

三 夜間ニ於ケル警戒監視法

四 音響及火光ニヨル連絡法

五 地形地物ノ暗識

4. 近接戦闘

一 手榴彈ヲ以テスル戦闘(夜間・裝面・煙内)

二 固定戰車地雷・障礙物ノ處理

三 團壁ヲ利用シテ敵ノ側背ニ迫ル動作

二 神出鬼没的行動ノ慣熟(特ニ奇襲急襲ノ要領)

ホ 村落内ニ於ケル一人壕(蟄壺)ヲ利用シテ行フ急襲要領

ハ 格闘(特ニ壕内)

一 火焰戦闘及軟戰車ノ火焰攻撃ニ對スル防衛動作

5. 對瓦斯戰鬥

一 海岸ニ於ケル奇襲戰法(海岸配置部隊)

二 軍官民合同ノ綜合訓練及飛行場誘隊トノ協同訓練ハ少クモ一月ニ一回以上實施ス

三 防衛隊ノ教育ヲ擔任ハ戰闘時於ケル配屬先ノ副官及關係中隊長ニ

於テ少クモ一月ニ一回以上實施スルモノトス

實施スベキ重要ナル課目ハ對戰車肉薄攻撃・挺身奇襲・動作(竹槍・依ル刺突動作各種状況地形下ニ於ケル手榴彈ノ投擲トス)

四 自警團ノ教育ハ前項ニ準ズ

五 自警團ノ教育ハ前項ニ準ズ



教育ノ子生隊ノ教育ハ救護及掩蔽教育ヲ主トシ併テ戰鬥  
ノ教育ヲ實施ス

救護擔架教育  
大隊附員醫擔任

軍隊炊事  
大隊附員計擔任

八一級卸落兵ニ對スル非常時ノ動作ハ綜合訓練ニ於テ實施ス

### 第八章 情報 警戒 防謀

一 離着陸スル飛行機搭乗員ニ依ル情報蒐集ニ勉ムル飛行場諸隊擔  
任ノ特ニ地區隊ト飛行場諸隊トノ情報ノ交換ニ勉ム

二 通信系ヲ極力利用ス

三 展望哨ヲ地區隊及飛行場大隊ニ設ケ主トシテ船舶運行ノ狀態敵  
潛水艦ノ動向ニ注意スルト共上空ノ監視ヲ併セ行フ

四 陸軍監視員ト連絡ヲ密ニスル

五 波止場衛兵ヲシテ情報ハ蒐集及防諜ニ任セシム

六 防諜ノ爲特ニ巡察隊ヲ波止場附近及其他必要ナル方面ニ派遣ス

七 現地警察官及役場吏員ヲ活用ス

八 印刷物ノ取扱ヲ嚴ニシ之ガ處置ヲ特ニ嚴ナラシム

九 防衛地内ノ重要施設ノ防諜ニ關シテハ隊員ニハ一八〇〇部隊防衛任地内重要施設  
設置防諜地要領ニ基テ別ニ定ム

### 第九章 築城 交通

#### 一 築城

一 障地ノ強度ハ先ツ野戰築城トシ逐次永久築城ノ施設ニ移行シ  
本島ヲ要塞化ス

二 火器ノ障地ハ側射背射ヲ主トシ相互援助シ得ル如ク定ム

三 各個掩体ノ距離間隔ヲ十米乃至二十米トス

四 掩蔽部ハ横穴洞窟式トシ敵ノ熾烈ナル艦砲射撃並ニ砲臺撃子ニ  
對シテ對安全ヲ期シ得ル如ク構築ス